

岩滝山遺跡第4次発掘調査報告書

1999

財団法人 東大阪市文化財協会

本文目次

I 調査に至る経過	1
II 位置と環境	1
III 調査の方法	3
IV 調査の成果	
a) 基本層序	3
b) 遺構と遺物	4
V まとめ	12

挿図目次

1 図 調査地点	1
2 図 周辺の遺跡分布図	2
3 図 調査区の基準ライン設定図	3
4 図 調査区南壁断面	4
5 図 第3層上面検出遺構全体図	5
6 図 土壙墓1実測図	6
7 図 石組墓上面図	6
8 図 石組墓実測図	7
9 図 第4層上面検出遺構全体図	8
10 図 Pit 9・16・17立割状況実測図	9
11 図 遺構内出土遺物実測図	10
12 図 出土遺物実測図	11

図版目次

図版 1	1 完掘状況 2 完掘状況	29
図版 2	3 完掘状況 4 南東部第4層上面遺構検出状況	30
図版 3	5 南壁コーナー部分断面 6 fラインアゼ北側断面	31
図版 4	7 1b地区土壙墓遺物出土状況(南より) 8 火葬場検出状況(南北アゼ西側断面)	32
図版 5	9 第4層上面 Pit 1・Pit 2 完掘状況 10 第2層下面 2h地区軒丸瓦出土状況	33
図版 6	11 1c地区石組墓 12 石組墓南壁検出状況	34
図版 7	13 石組墓完掘状況(東より) 14 Pit73弥生土器出土状況	35

表目次

1 表 周辺の遺跡の変遷	2
2 表 遺構観察表	13
3 表 遺物観察表	21

岩滝山遺跡第4次発掘調査報告書

I 調査に至る経過

岩滝山遺跡は、標高約60～100mに位置する弥生時代から中世にかけての遺跡である。近年の住宅建設は、生駒山山麓部から次第に山腹部におよびつつある。昭和62年、標高約70mの東大阪市六万寺町1-788-1番地においても富士住建によって住宅の建設が計画された。当該地は、岩滝山遺跡の推定範囲の南西隅部分のため、住宅建設に先立ち東大阪市教育委員会文化財課で試掘調査を実施したところ、地山上面で弥生時代から中世の遺構の存在することが判明した。試掘調査をうけ富士住建と東大阪市教育委員会の間で協議を重ねた結果、記録保存のため住宅建設予定地全域の780㎡を発掘調査することとなった。発掘調査は、富士住建からの委託をうけた東大阪市文化財協会が昭和62年10月13日から昭和62年12月7日まで現地での発掘調査を実施した。

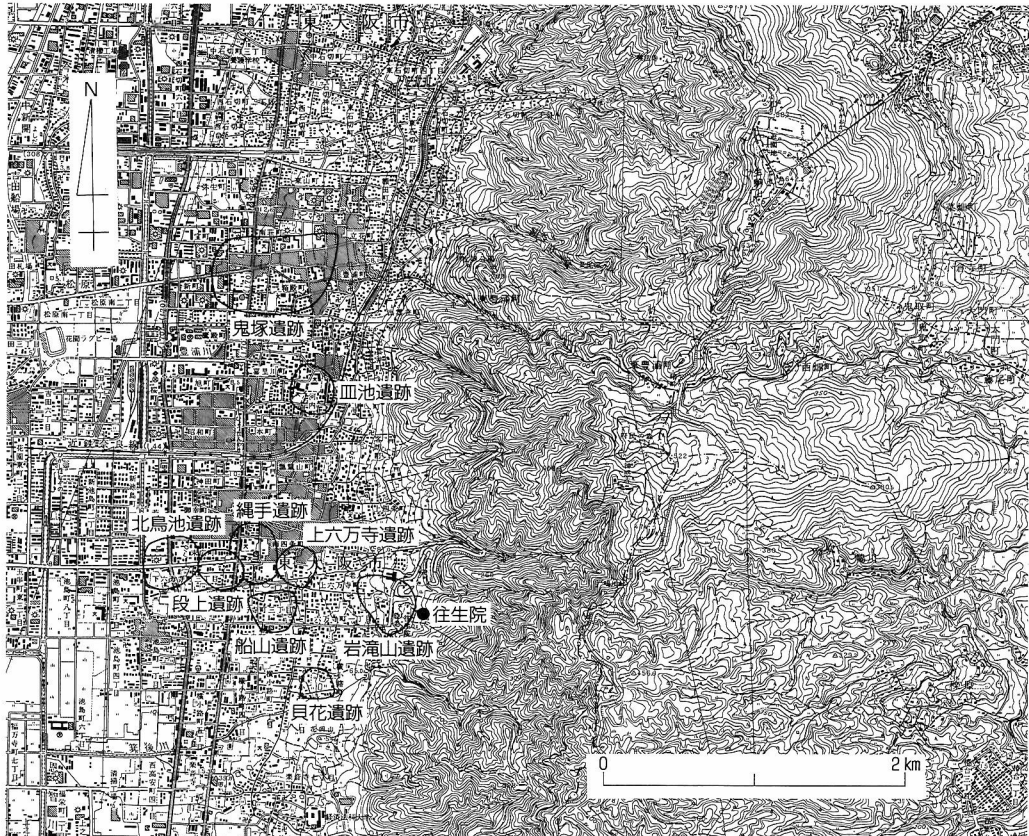
II 位置と環境

生駒山西側斜面には、東から西に向かって流れる小河川によって形成された幾筋もの谷筋がある。岩滝山遺跡は、鳴川によって形成された鳴川谷の南側の尾根上の標高約60～100mに立地している。第4次調査地点は、本遺跡の推定範囲の西南端部分にあたり昭和58年国土地理院発行の土地条件図、大阪東南部では段丘下位面に分類されている。

岩滝山遺跡は、これまでに3回の発掘調査が実施され、弥生時代後期の円形および方形の



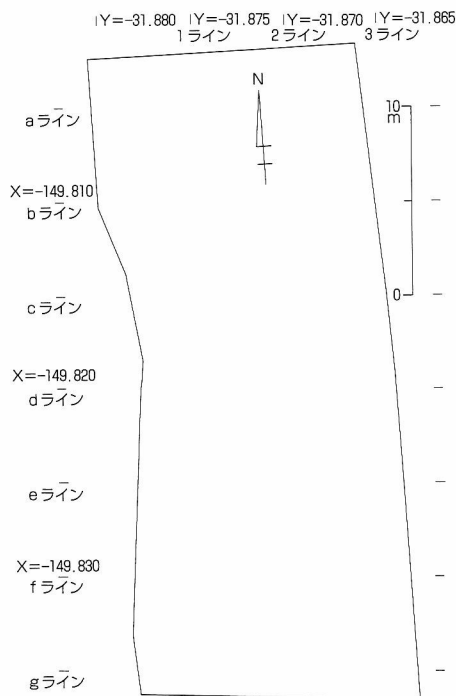
1 図 調査地点



2 図 周辺の遺跡分布図

遺跡名	遺 遺	構 物	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良・ 平安時代	鎌倉・ 室町時代
鬼塚遺跡								
皿池遺跡								
北鳥池遺跡								
段上遺跡								
繩手遺跡								
上六万寺遺跡								
船山遺跡								
岩滝山遺跡								
往生院								
貝花遺跡								

1 表 周辺の遺跡の変遷



3図 調査区の基準ライン設定図

重機による掘削終了後、調査地区内には国家座標に基づく基準ラインを設定した。東西方向の基準ラインは、北から順に10mごとにb (x=-149810), d (x=-149820), f (x=-149830)ラインと仮称し、さらにこの間に5mごとの基準ライン (aライン、cライン、eライン、gライン) を設定した。。また、南北方向の基準ラインは、西から順に5mごとに1 (Y=-31875), 2 (Y=-31870), 3 (Y=-31865)ラインとした。これらの基準ラインの交点に杭を打設し、1a・2a・3a……と呼称することにした。遺構図の作製は、この基準ラインをもとにおこなっている。

IV 調査の成果

本調査では、平安時代後期から室町時代の遺構・遺物、弥生時代の遺構と遺物を確認している。以下では、基本層序と検出した遺構と遺物について記述をすすめてゆく。なお、遺構の個々のデータは2表に、遺物は、3表にまとめてある。

a) 基本層序

調査地区の西半部では、東から西へ傾斜する地山の傾きにそって2層の遺物包含層が存在する。調査区東半部では、地山まですでに削平されており、2層の遺物包含層は存在しない。また、調査区西端部は、調査前に存在していた石垣の造成によって遺物包含層を削り取られ

竪穴住居や中世の遺構が確認されている。本遺跡の立地する生駒山西側斜面から山麓部には、旧石器時代から近世にかけての多くの遺跡が分布している。本遺跡周辺にある遺跡の位置と時期の変遷は、これまでの調査成果をもとに2図・1表に示しておく。

III 調査の方法

調査地区は、東から西に向かって傾斜する地形を改変し、平坦地となっている。このため調査地区の西側では段を形成し、石垣が築かれている。平坦面には、調査前に住宅が存在していた。調査区内の掘削には、調査区全域を覆う表土・盛土・住宅に伴う攪乱部分を重機を用い、以下の層位を人力で行うこととした。各層位の上面では、遺構検出をおこなった。遺構の検出された場合には、図面の作成と写真撮影をおこなった。

重機による掘削終了後、調査地区内には国家

座標に基づく基準ラインを設定した。東西方向の基準ラインは、北から順に10mごとにb (x=-149810), d (x=-149820), f (x=-149830)ラインと仮称し、さらにこの間に5mごとの基準ライン (aライン、cライン、eライン、gライン) を設定した。。また、南北方向の基準ラインは、西から順に5mごとに1 (Y=-31875), 2 (Y=-31870), 3 (Y=-31865)ラインとした。これらの基準ラインの交点に杭を打設し、1a・2a・3a……と呼称することにした。遺構図の作製は、この基準ラインをもとにおこなっている。

ている。ここでは、調査区南壁の断面を図示する。

第1層 表土

第2層 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質土（5mm～1cmの礫を含む。）

第3層 2.5Y3/2黒褐色砂質土（5mm大の礫を含む。）

第4層 10Y R5/6黄褐色砂質シルト（地山）

上層の遺物包含層（第2層）は、オリーブ褐色砂質土層で調査区西南部分に堆積する。当層の層厚は、東から西へ徐々に増し、西端部で約30cmを測る。本層位からは、14世紀代までの土師器・瓦器・須恵器などの土器類・軒丸瓦のほか弥生土器が出土している。

下層の遺物包含層（第3層）は、黒褐色砂質土層で調査地区西半部分全体に地山の傾きにそって堆積する。西端部分での層厚は約40cmを測る。本層位からは、平安時代後期～13世紀代の土師器・瓦器・須恵器などを検出している。

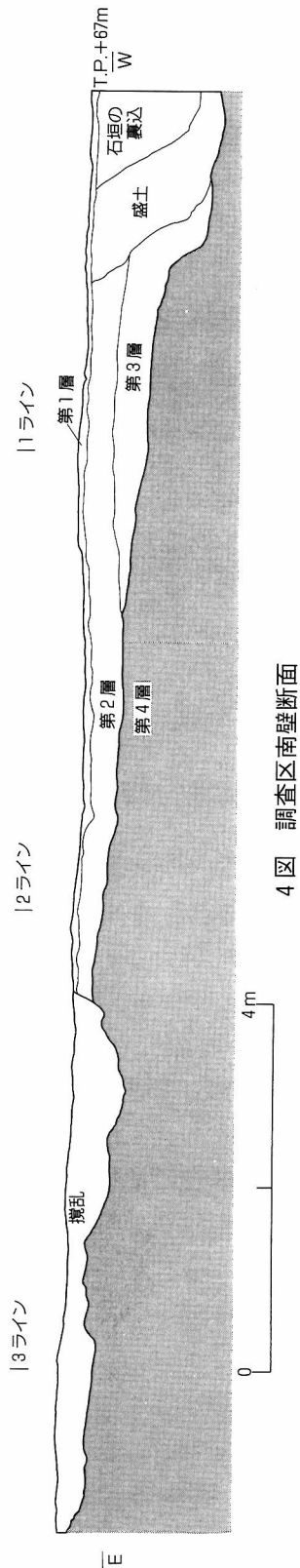
地山面は、黄褐色砂質土層で削平をまぬがれた調査地区西半部分で、東から西にゆるやかに傾斜する。しかし、調査区北西隅部分では、北西方向に向かって急傾斜となる。

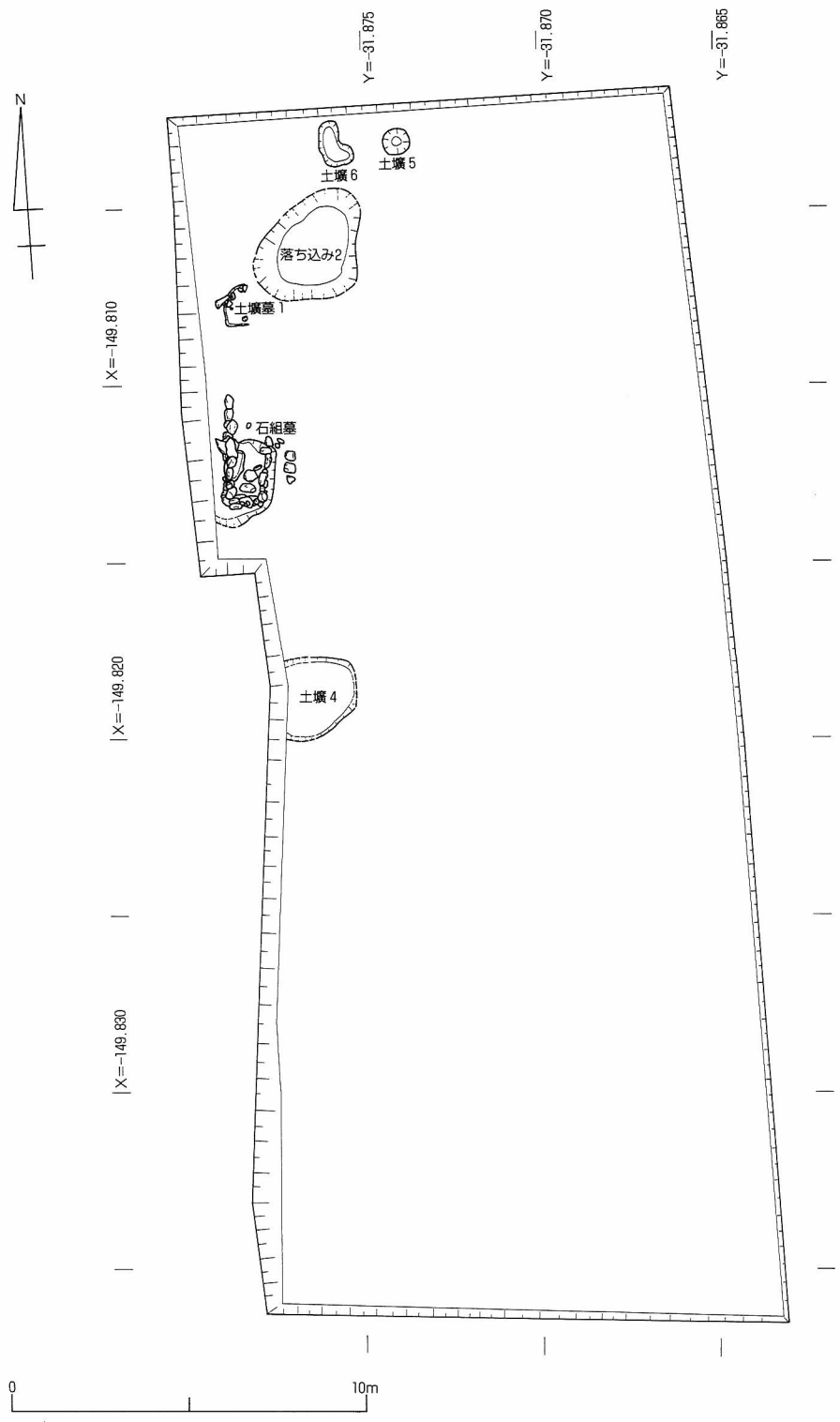
b) 遺構と遺物

遺構は、下層の遺物包含層（第3層）上面と地山（第4層）上面で確認している。これらの遺構は、既に地山層まで削平された調査区東半部分ではほとんど検出できず、中央から西寄り部分に集中する。以下、両層位ごとに確認できた遺構・遺物の概要を記述していく。

第3層上面では、土壙墓1基・石組墓1基・土壙3基・落ち込み1基を調査区中央から北寄りの地点で検出している。

土壙墓は、東側を調査に伴う排水溝の掘削によって破壊したため全形態と規模を把握できないが検出時点で東西65cm以上・南北1.1m・深さ6cmを呈する。底面は、平坦な面をなす。土壙内の出土遺物には、人骨と土師器皿がある。土壙内から木棺の痕跡を確認できなかったことや鉄釘が出土していないことから埋葬者は、木棺に納められず土壙内に直葬されたものと推定できる。人骨は、極めて保存状態が悪いため性別・年齢は不明である。土壙墓北寄り部分には、頭骨の一部と推定される骨の傍らに5点の土師器がある。このうち、土師器小皿は南北方向





5 図 第 3 層上面検出遺構全体図

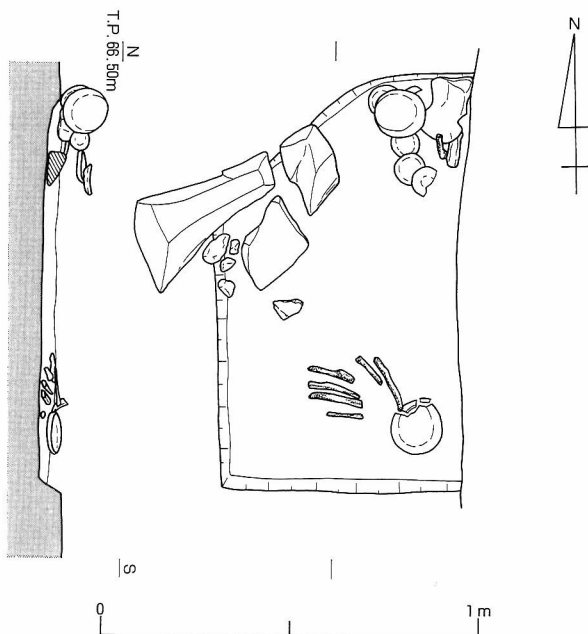
に1列に配し、北端の1点を伏せ、他の3点を正立状態で据え置いている。さらに土師器小皿の上には、土師器大皿1点を伏せた状態で置いている。南寄り部分からは、土師器大皿1点が正立状態で出土している。これらの副葬品や検出層位から土壙墓は13世紀後半頃のものだと推定できる。

石組墓は、北側に向かって開口し、人頭大から馬頭大の花崗岩や斑れい岩を用いて東西両側壁と南側の奥壁によって構成されている。石組墓の規模は、現状で南北長2.95m・奥壁部分での東西幅約1.25m・高さ65cmを測る。また石組墓の掘り方は、南北長3.5m・東西長2.2m以上を測る。

奥壁は、人頭大の石を横置きし、ほぼ垂直に積み上げ4段分残存している。目地は凹凸が著しい。東側壁は、人頭大の石を横置きし、ほぼ垂直に積み上げ2～4段分残存している。西側壁は、人頭大から馬頭大を超える石を横置きし、1～4段分残存している。東側壁がほぼ垂直に積まれているのに対し、西側壁は強く持ち送っている。天井石は、まったく残存しない。

石組墓の床面は、奥壁から約1.7mの部分で段差があり、奥壁寄りの部分が約24cm低くなっている。この部分には、2個の上面が平坦な石をほぼ同レベルに据え置いている。このうち、奥壁寄りの石の上には、骨片が残存している。

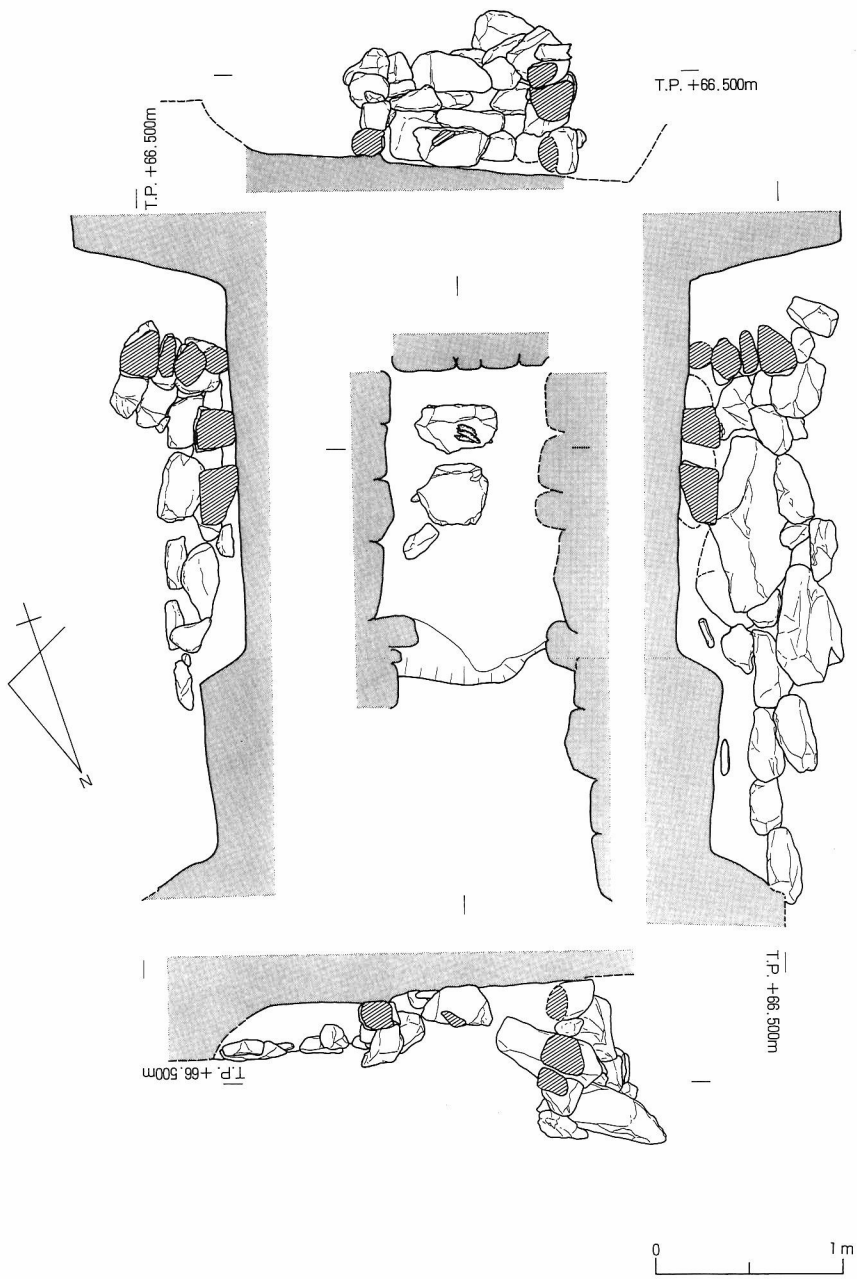
石組墓の埋土からは、土師器・瓦器の細片が少量出土しているのみである。



6図 土壙墓1 実測図



7図 石組墓上面図



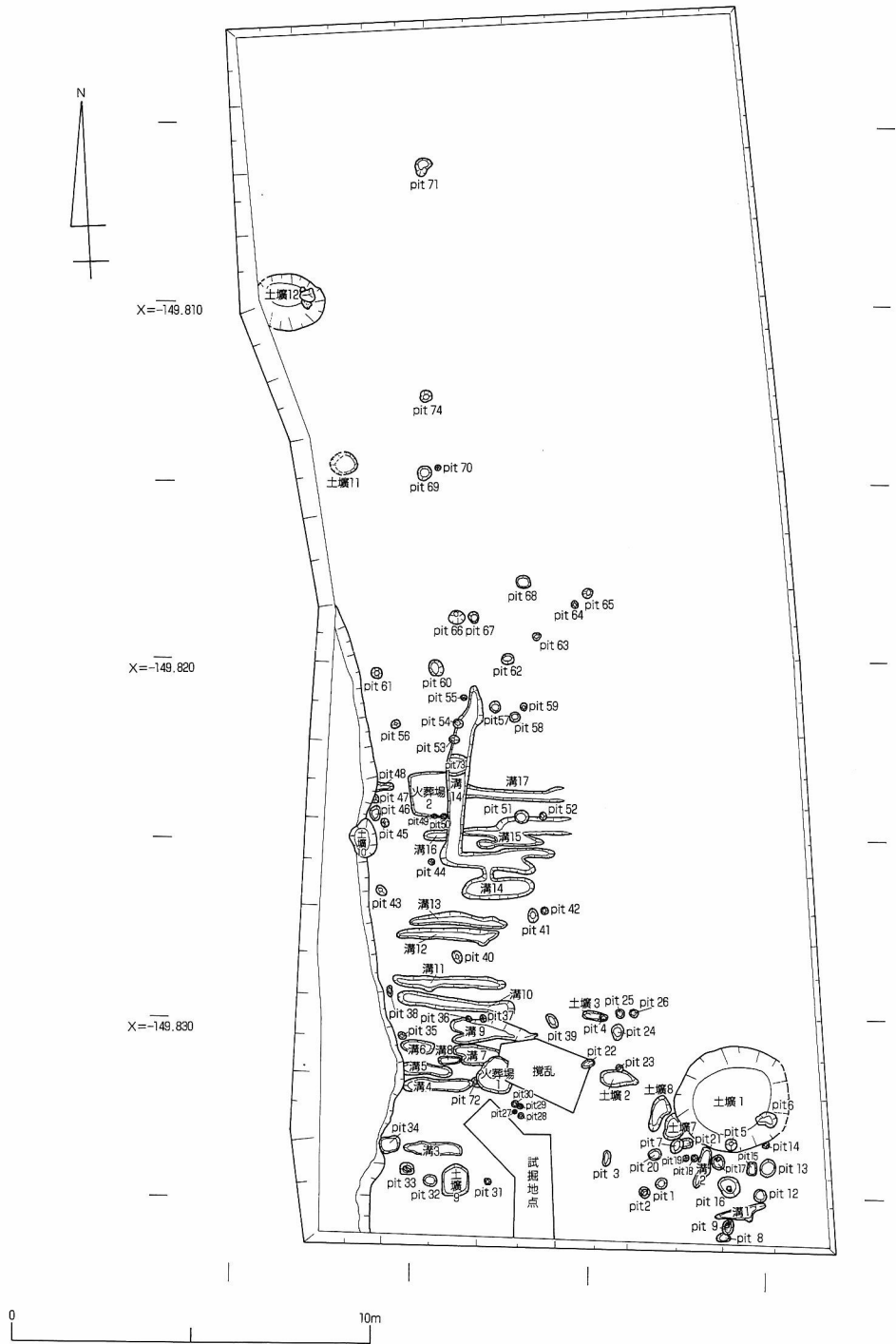
8 図 石組墓実測図

|Y=-31.880

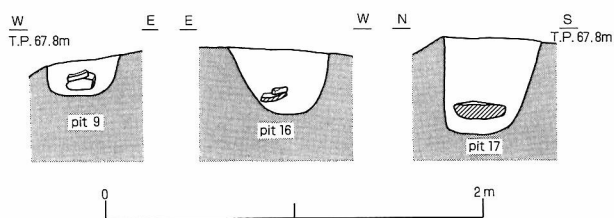
|Y=-31.875

|Y=-31.870

|Y=-31.865



9 図 第 4 層上面検出遺構全体図



10図 Pit 9・16・17立割状況実測図

また、床面からの出土遺物もない。したがって、出土遺物から石組墓の時期を判断できないが、検出層位から13世紀後半頃と推定できる。

土壙4からは、土師器皿・瓦器椀とともに外面に煤の付着した滑石製の石鍋の破片が出土している。石鍋は、神並遺跡や鬼塚遺跡などの中世集落をはじめ寺院跡と推定される客坊山遺跡の発掘調査でも出土している。

第4層上面では、鎌倉時代から室町時代と弥生時代後期の遺構を検出している。以下では時期ごとにわけて記述してゆく。

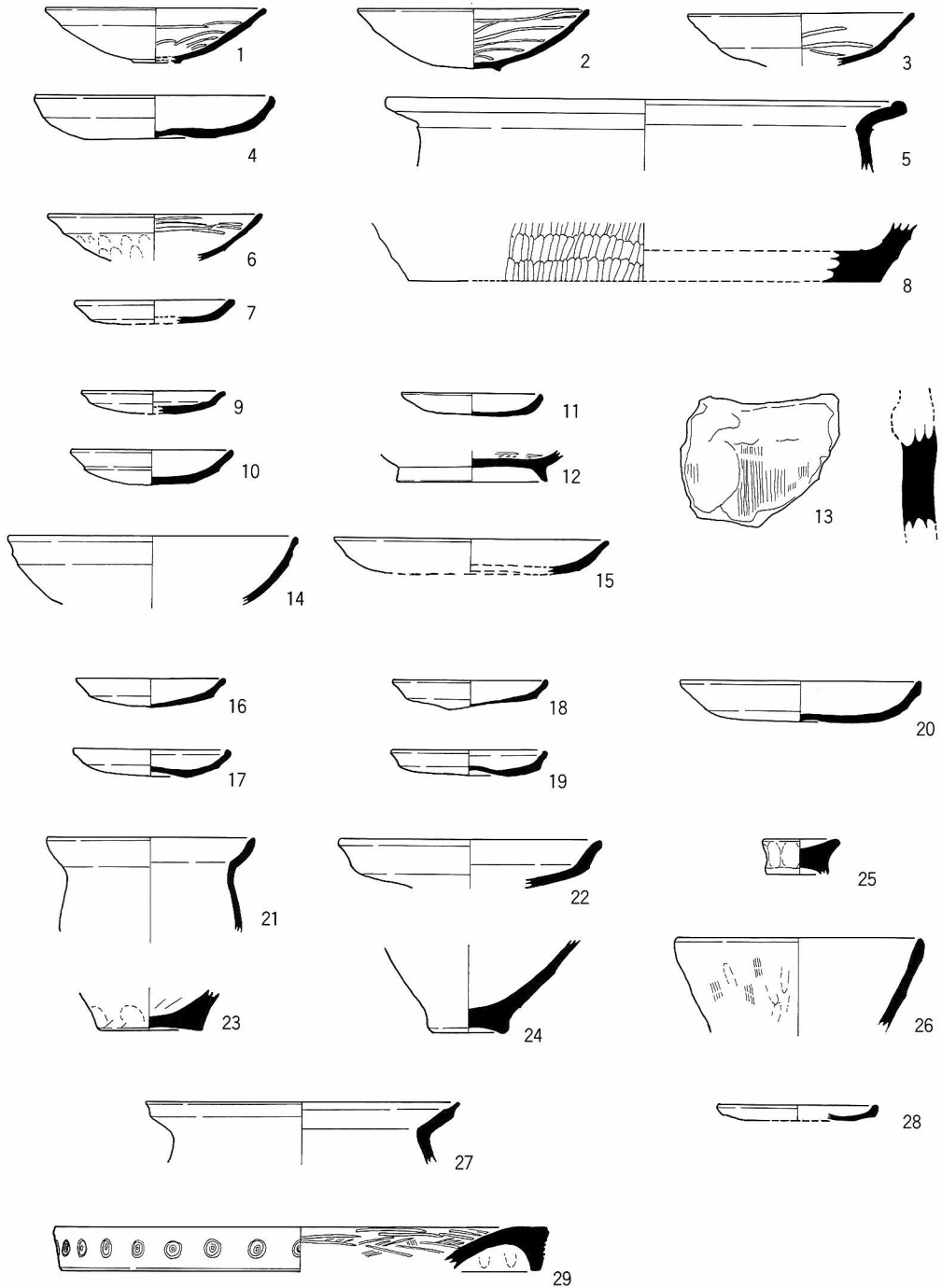
第4層上面で検出している鎌倉時代から室町時代の遺構には、溝17条・pit57基・土壙5基・火葬場2基などがある。溝は、調査地中央から南寄りの地点で、ほとんどが東西方向に平行する。深さは5～10cmで浅く、地山面に沿って東から西に傾く。pitは、多数確認しているが建物を復元できない。直径30cm前後の楕円形を呈するものが多い。pitの底面には根石を敷くもの、平瓦を置きその上に石を重ねるもの、石を先に置き、あとで平瓦をのせるものなどがある。土壙1からは、口縁端部を丸くおさめ底部に退化した高台を貼付けた瓦器椀と高台のない瓦器椀をはじめ土師器皿・釜が出土している。火葬場1は、試掘調査トレンチによって破壊されているが、1辺約1mの正方形を呈する。断面形は逆台形を呈し、深さ約15cmを測る。4壁、面はよく焼けるとともに東壁および南壁に部分的に高さ約20cmの焼けた壁のたちあがりが残存する。底面には、壁面にみられたような加熱にともなう変色は認められない。火葬場1内からは、炭・焼土を多量に検出しているが骨片や土器片はまったく出土していない。火葬場2は、火葬場1の北側約7mに位置し、溝14によって東側を削平されているものの平面形態・規模とも火葬場1と大差ない。壁面は、よく焼け変色している。火葬場1で検出しているような壁のたちあがり認められない。火葬場2の埋土には、多量の炭・焼土を検出しているが骨片や土器片は出土していない。火葬場1・2と同様の形態ならびに規模の遺構が、岩滝山第6次発掘調査でも確認されている。

弥生時代の遺構には、pit11基がある。pitは、直径20～30cm・深さ40～50cmで鎌倉時代のものよりも深い。これらの柱穴によって構成される掘立柱建物や竪穴住居は復元できない。pit73からは、弥生時代後期の壺、甕、高坏などの土器が多量に出土している。

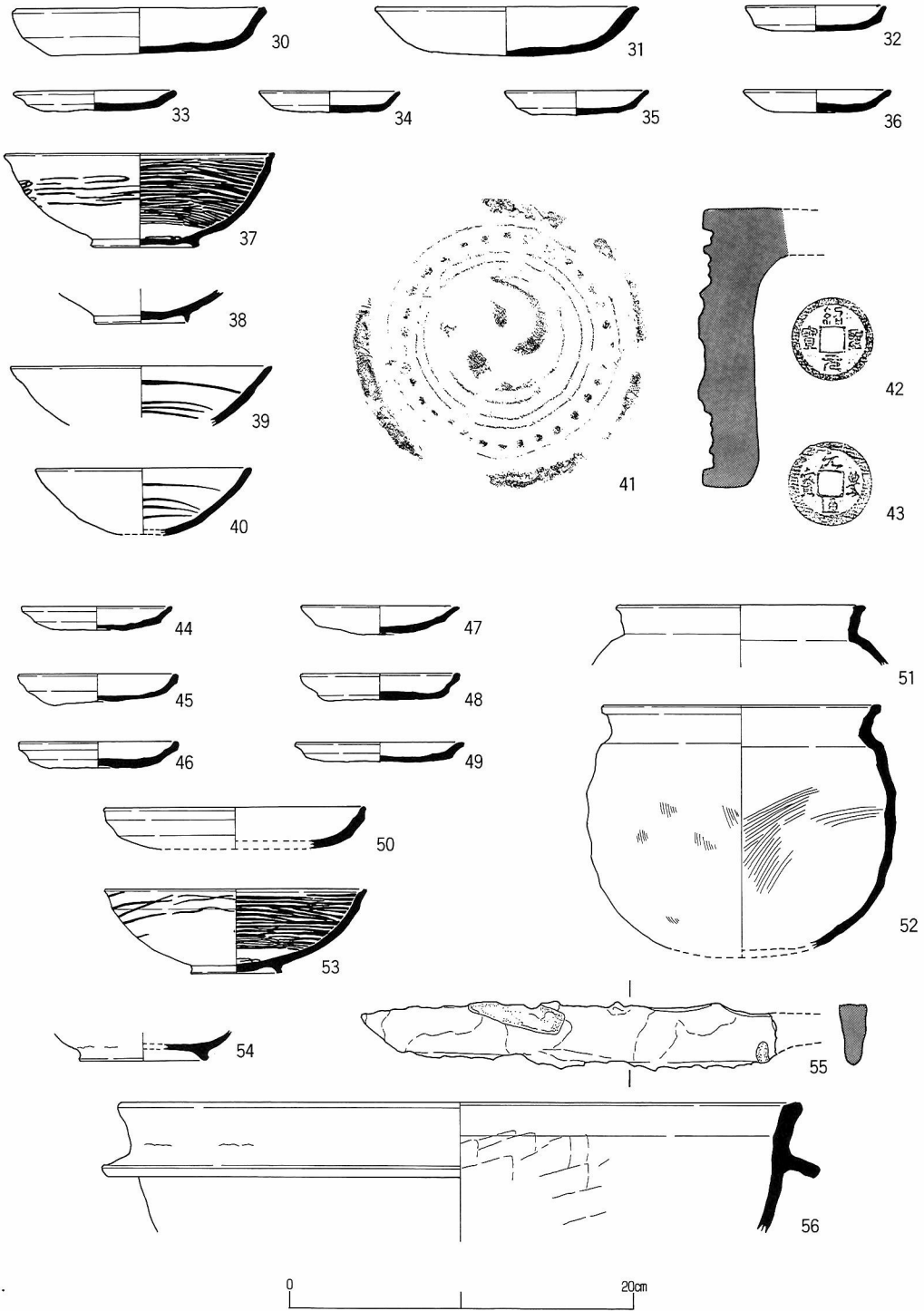
以上のような遺構内出土の遺物のほか、第2層・第3層からも遺物を検出している。

第2層からは、平安時代後期から14世紀代の土師器・瓦器・軒丸瓦・銭貨などが出土している。軒丸瓦は、外区に珠文と圏線を配した左巻の巴文をもつ。銭貨には、北宋銭の紹聖元宝1点・元豊通宝1点がある。

第3層からは、平安時代後期から13世紀の土師器・瓦器・黒色土器・鉄刀などを検出している。



11図 遺構内出土遺物実測図



12図 出土遺物実測図

V まとめ

以上のように岩滝山遺跡第4次発掘調査では、平安時代後期から室町時代初めおよび弥生時代後期の遺構・遺物を確認することができた。

平安時代後期から室町時代では、Pit・溝・土壇をはじめ土壇墓・石組墓・火葬場などの遺構を検出している。本調査では、瓦類の出土量が少なかった。また、根石をもつPitを検出しているにもかかわらず、建物は復元できなかった。このことから調査区内には、瓦葺きの建物を含む多数の建物群の存在を想定することはできない。一方、様々な埋葬施設を確認していることから調査区周辺は、同期の墓域の一画にあたるものと推定できる。

本調査地点の東側にある往生院は、文献史料から平安時代の長暦年間(1037～1040)に建立され、正平3年(1348)に火災によって焼失したものと推定されている。本調査で検出した遺構や第2・3層出土遺物は、往生院の建立から被災するまでの時期と一致している。したがって、岩滝山遺跡における同期の遺構の拡がりや性格は、往生院の展開ともあわせて検討する必要がある。

本遺跡で既に確認されている弥生時代後期の竪穴住居は、本調査地点の東側、標高100m付近にある。第4次発掘調査地点では、同期のpitを検出している。このことから、弥生時代後期の集落は、標高100m付近から本調査地点のある標高80m付近にまで広がっていたものと推定できる。

遺構名	平面形 規 模 cm	埋 土	施設
溝01	南北長 55 東西長 深さ 25.6	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
溝02	南北長 東西長 30 深さ 12.8	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
溝03	南北長 40 東西長 深さ 10.2	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロック・炭を含む)	
溝04	南北長 45 東西長 深さ 9.9	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝05	南北長 35 東西長 深さ 10.3	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝06	南北長 40 東西長 深さ 7.6	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝07	南北長 60 東西長 深さ 14.5	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝08	南北長 35 東西長 深さ 6.3	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝09	南北長 70 東西長 深さ 18.5	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝10	南北長 40 東西長 深さ 12	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝11	南北長 45 東西長 深さ 4.2	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝12	南北長 35 東西長 深さ 5.6	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝13	南北長 40 東西長 深さ 5.4	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝14	南北長 50 東西長 深さ 2.7	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	

2表 遺構観察表(1/8)

遺構名	平面形	規模 cm	埋 土	施設
溝15		南北長 50 東西長 深さ 8.3	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝16		南北長 30 東西長 深さ 8.2	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
溝17		南北長 30 東西長 深さ 4	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
土壙01	円形	南北長 300 東西長 深さ 12		
土壙02	楕円形	南北長 45 東西長 105 深さ 9.7		
土壙03	楕円形	南北長 30 東西長 70 深さ 3.8		
土壙04	円形?	南北長 230 東西長 125 深さ 8.6	10YR4/3シルト (炭を含む)	
土壙05	円形	南北長 75 東西長 75 深さ 18.9	10YR3/1砂まじりシルト (2~3mmの細礫・炭を含む)	
土壙06	楕円形	南北長 80 東西長 100 深さ 19.8	(2~3mmの礫・炭を含む)	
土壙07	楕円形	南北長 70 東西長 60 深さ 13.5	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
土壙08	楕円形	南北長 100 東西長 50 深さ 8.6	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
土壙09	方形	南北長 90 東西長 75 深さ 30.1	2.5Y5/4シルト (5mm前後の礫を含む)	
土壙10	楕円形	南北長 115 東西長 80 深さ 25.8	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロック・炭・焼土を含む)	
土壙11	円形?	南北長 60 東西長 50 深さ 26.8	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	

2表 遺構観察表(2/8)

遺構名	平面形	規 模 cm	埋 土	施 設
土壙12	楕円形	南北長 160 東西長 160 深さ 31.9		
火葬場01	楕円形	南北長 100 東西長 90 深さ 12	10YR3/1砂質シルト (炭・焼土を含む) 10YR3/2 (炭・焼土を含む) 10YR3/1 (10YR4/5砂質シルトのブロックを含む)	
火葬場02	方形	南北長 120 東西長 100 深さ 30	10YR3/2砂質シルト (5mm前後の礫・炭・焼土を含む)	
土壙墓01	方形	南北長 110 東西長 65 深さ 6	10YR5/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
石組墓	方形	南北長 295 東西長 125 深さ 65	2.5YR3/2砂まじりシルト 10YR3/2砂まじりシルト	
落ち込み02	楕円形	南北長 東西長 295 深さ 25	10YR4/3砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
Pit01	円形	南北長 32 東西長 30 深さ 8.6		
Pit02	円形	南北長 30 東西長 30 深さ		
Pit03	楕円形	南北長 45 東西長 20 深さ 5.4		
Pit04	円形	南北長 15 東西長 20 深さ 1.1		
Pit05	円形	南北長 32 東西長 30 深さ 15.2		
Pit06	楕円形	南北長 45 東西長 60 深さ 9.7		
Pit07	楕円形	南北長 50 東西長 35 深さ 3.6		
Pit08	楕円形	南北長 25 東西長 40 深さ 15.9	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	

2表 遺構観察表(3/8)

遺構名	平面形	規模 cm	埋土	施設
Pit09	楕円形	南北長 40 東西長 22 深さ 13	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	根石 (石+平瓦)
Pit10		南北長 東西長 深さ		
Pit11		南北長 東西長 深さ		
Pit12	円形	南北長 35 東西長 35 深さ 15.5	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
Pit13	円形	南北長 50 東西長 45 深さ 13.3	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫・炭を含む)	
Pit14	円形	南北長 20 東西長 20 深さ 16.1	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit15	方形	南北長 35 東西長 25 深さ 13.4	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロック・炭を含む)	
Pit16	円形	南北長 60 東西長 60 深さ 16.9	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	根石 (平瓦+石)
Pit17	円形	南北長 45 東西長 40 深さ 38.8	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	根石
Pit18	円形	南北長 20 東西長 20 深さ 9	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
Pit19	円形	南北長 20 東西長 20 深さ 11.5	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
Pit20	楕円形	南北長 32 東西長 40 深さ 2.9	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
Pit21	楕円形	南北長 21 東西長 30 深さ 10.6	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫・炭を含む)	
Pit22	楕円形	南北長 25 東西長 40 深さ 15.1	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	

2表 遺構観察表(4/8)

遺構名	平面形	規 模 cm	埋 土	施設
Pit23	円形	南北長 20 東西長 20 深さ 12.9	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロック・炭・焼土を含む)	
Pit24	楕円形	南北長 45 東西長 30 深さ 18	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit25	円形	南北長 25 東西長 28 深さ 13.2	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロック・炭を含む)	
Pit26	円形	南北長 30 東西長 28 深さ 7.9	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロック・炭を含む)	
Pit27	円形	南北長 12 東西長 15 深さ 8.2	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
Pit28	円形	南北長 18 東西長 18 深さ 6.5	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit29	円形	南北長 15 東西長 20 深さ 11.3	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロック・焼土を含む)	
Pit30	円形	南北長 22 東西長 20 深さ 20.7	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
Pit31	方形	南北長 18 東西長 20 深さ 21.5	2.5Y5/4シルト (5mm前後の礫を含む)	
Pit32	円形	南北長 35 東西長 38 深さ 20.9	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロック・炭を含む)	
Pit33	楕円形	南北長 35 東西長 40 深さ 0.5	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit34	方形	南北長 50 東西長 60 深さ 12.1	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit35	楕円形	南北長 20 東西長 25 深さ 9.8	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit36	円形	南北長 15 東西長 15 深さ 1.9		

2表 遺構観察表(5/8)

遺構名	平面形	規 模 cm	埋 土	施 設
Pit37	楕円形	南北長 20 東西長 15 深さ 2.7		
Pit38	楕円形	南北長 32 東西長 18 深さ 0.4	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit39	楕円形	南北長 38 東西長 32 深さ 34.9	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit40	楕円形	南北長 35 東西長 30 深さ 2.7	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit41	楕円形	南北長 40 東西長 30 深さ 17.8	2.5Y5/4砂質シルト (地山ブロックを含む)	
Pit42	円形	南北長 22 東西長 22 深さ 15	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit43	楕円形	南北長 32 東西長 30 深さ 15.1	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロック・炭を含む)	
Pit44	円形	南北長 18 東西長 15 深さ 11.6	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit45	円形	南北長 25 東西長 20 深さ 38.3	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	
Pit46	楕円形	南北長 42 東西長 35 深さ 27.1	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	
Pit47	円形	南北長 25 東西長 20 深さ 13.8	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	
Pit48	楕円形	南北長 25 東西長 50 深さ 2.4	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit49	円形	南北長 8 東西長 10 深さ	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit50	円形	南北長 15 東西長 15 深さ 13.6	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	

2表 遺構観察表(6/8)

遺構名	平面形	規 模 cm	埋 土	施設
Pit51	円形	南北長 40 東西長 40 深さ 18	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit52	円形	南北長 25 東西長 20 深さ 10.6	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit53	楕円形	南北長 22 東西長 30 深さ 10.6	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit54	円形	南北長 30 東西長 30 深さ 40.6	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	
Pit55	円形	南北長 15 東西長 20 深さ	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit56	円形	南北長 25 東西長 30 深さ 25.8	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	
Pit57	円形	南北長 38 東西長 35 深さ 19.9	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit58	円形	南北長 30 東西長 30 深さ 18.9	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit59	円形	南北長 25 東西長 20 深さ 13.6	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit60	楕円形	南北長 50 東西長 42 深さ 12.9	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit61	円形	南北長 32 東西長 30 深さ 14.7	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	
Pit62	円形	南北長 32 東西長 35 深さ 23	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit63	円形	南北長 25 東西長 25 深さ 2.6	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit64	円形	南北長 25 東西長 20 深さ 11	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	

2表 遺構観察表(7/8)

遺構名	平面形	規 模 cm	埋 土	施設
Pit65	円形	南北長 30 東西長 30 深さ 12.2	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit66	円形	南北長 40 東西長 45 深さ 55.2	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	
Pit67	円形	南北長 32 東西長 30 深さ 14.4	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit68	円形	南北長 38 東西長 40 深さ 22.3	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit69	円形	南北長 45 東西長 42 深さ 30	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	
Pit70	円形	南北長 18 東西長 20 深さ 14.8	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit71	楕円形	南北長 50 東西長 50 深さ 34.3	2.5Y6/2砂質シルト (5mm前後の礫を含む)	
Pit72	楕円形	南北長 30 東西長 20 深さ 8.3	10YR4/2砂質シルト (5mm前後の礫・地山ブロックを含む)	
Pit73	楕円形	南北長 60 東西長 50 深さ 27.4	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	
Pit74	円形	南北長 35 東西長 35 深さ 44.6	10YR4/2砂質シルト (礫・炭・焼土を全く含まない)	

2表 遺構観察表(8/8)

	層位	種類	法量 (cm)	色調	調整手法	
	出土遺構	器種				
報告No. 01 図 11	第4層上面 土壙01	瓦器 椀	口径12.0 器高3.1	N5/0	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 02 図 11	第4層上面 土壙01	瓦器 椀	口径13.0 器高3.4	N4/0 内面 7.5Y7/1	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 ヨコナデ後横方向の ヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 03 図 11	第4層上面 土壙01	瓦器 椀	口径12.6 器高	2.5Y8/2	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ヨコナデ 底部外面 ナデ	口縁部内面 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 04 図 11	第4層上面 土壙01	土師器 皿	口径13.2 器高2.5	7.5YR 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 05 図 11	第4層上面 土壙01	土師器 釜	口径29.2 器高	10YR 8/2	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 06 図 11	第3層上面 土壙04	瓦器 椀	口径12.0 器高	N4/0	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ユビオサエ 底部外面	口縁部内面 体部内面 ヨコナデ後横方向の ヘラミガキ 底部内面
報告No. 07 図 11	第3層上面 土壙04	土師器 皿	口径8.8 器高1.3	7.5YR 3/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 08 図 11	第3層上面 土壙04	石製品 石鍋	口径 器高		口縁部外面 ミガキ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

3表 遺物観察表(1/7)

	層位	種類 器種	法量 (cm)	色調	調整手法	
	出土遺構					
報告No. 09 図 11	第3層上面 落ち込み02	瓦器 皿	口径8.0 器高	N5/0	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ
報告No. 10 図 11	第3層上面 落ち込み02	瓦器 皿	口径9.0 器高2.0	N8/0	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ナデ後一定方向のヘ ラミガキ
報告No. 11 図 11	第3層上面 落ち込み02	土師器 皿	口径7.8 器高1.3	7.5 YR 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 12 図 11	第3層上面 落ち込み02	黒色土器 椀	口径 器高	5 YR 5/6 内面 7.5 YR 2/1	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面 一定方向のヘラミガ キ
報告No. 13 図 11	第3層上面 落ち込み02	埴輪 円筒埴輪	口径 器高	7.5 YR 7/6	口縁部外面 体部外面 縦方向のハケメ 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 14 図 11	第3層上面 落ち込み02	瓦器 椀	口径16.0 器高	N6/0	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ナデ 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 15 図 11	第3層上面 落ち込み02	土師器 皿	口径15.4 器高	10 YR 8/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 16 図 11	第3層上面 土墳墓01	土師器 皿	口径8.2 器高1.6	10 YR 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

3表 遺物観察表(2/7)

	層位	種類	法量 (cm)	色調	調整手法	
	出土遺構	器種				
報告No. 17 図 11	第3層上面 土壙墓01	土師器 皿	口径8.6 器高1.5	10 Y R 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 18 図 11	第3層上面 土壙墓01	土師器 皿	口径8.6 器高1.7	10 Y R 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 19 図 11	第3層上面 土壙墓01	土師器 皿	口径8.6 器高1.45	10 Y R 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 20 図 11	第3層上面 土壙墓01	土師器 皿	口径13.4 器高2.3	7.5 Y R 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 21 図 11	第4層上面 pit73	弥生土器 甕	口径11.6 器高5.3	10 Y R 5/6	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 22 図 11	第4層上面 pit73	弥生土器 高坏	口径 器高	5 Y R 6/8	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 23 図 11	第4層上面 pit73	弥生土器	口径 器高	7.5 Y R 7/6	口縁部外面 体部外面 指頭圧痕 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面 ハケメ
報告No. 24 図 11	第4層上面 pit73	弥生土器 甕	口径 器高	7.5 Y R 6/8	口縁部外面 体部外面 平行タタキメ 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

3表 遺物観察表(3/7)

	層位	種類	法量 (cm)	色調	調整手法	
	出土遺構	器種				
報告No. 25 図 11	第4層上面 pit66	弥生土器	口径4.0 器高2.0	5YR5/6	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 26 図 11	第4層上面 pit66		口径13.6 器高5.4	7.5YR 6/6	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 27 図 11	第4層上面 pit75	弥生土器 甕	口径 器高	5YR6/6	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 28 図 11	第4層上面 pit13	土師器 皿	口径8.8 器高0.9	7.5YR 7/4	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 29 図 11	第4層上面 pit93	弥生土器 壺	口径 器高	7.5YR 6/6	口縁部外面 ヨコナデ 竹筥文 体部外面 底部外面	口縁部内面 ハケメ後ナデ後横方 向のヘラミガキ 体部内面 底部内面
報告No. 30 図 12	第2層	土師器 皿	口径14.3 器高2.85	7.5YR 7/6	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 31 図 12	第2層	土師器 皿	口径14.9 器高2.9	2.5Y8/2	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 32 図 12	第2層	土師器 皿	口径8.0 器高1.45	7.5YR 7/6	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

3表 遺物観察表(4/7)

	層位	種類	法量 (cm)	色調	調整手法	
	出土遺構	器種				
報告No. 33 図 12	第2層	土師器 皿	口径9.1 器高1.2	5YR7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 34 図 12	第2層	瓦器 皿	口径8.0 器高1.2	N8/0	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面 ジグザグ状暗文
報告No. 35 図 12	第2層	瓦器 皿	口径8.2 器高1.45	N5/0	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 36 図 12	第2層	瓦器 皿	口径8.3 器高1.3	5Y5/1	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 37 図 12	第2層	瓦器 椀	口径15.5 器高5.5	N5/0	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 横方向のヘラミガキ 底部外面 ヨコナデ	口縁部内面 横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 連結輪状暗文
報告No. 38 図 12	第2層	瓦器 椀	口径 器高	7.5Y5/1	口縁部外面 体部外面 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 体部内面 底部内面 連結輪状暗文
報告No. 39 図 12	第2層	瓦器 椀	口径15.1 器高	N4/0	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面
報告No. 40 図 12	第2層	瓦器 椀	口径12.5 器高	7.5Y5/1	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面

3表 遺物観察表(5/7)

	層位	種類	法量 (cm)	色調	調整手法	
	出土遺構	器種				
報告No. 41 図 12	第2層	瓦 軒丸瓦	口径 器高	N5/0	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 42 図 12	第2層	金属製品 貨幣(紹 聖元宝)	口径 器高		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 43 図 12	第2層	金属製品 貨幣(元 豊通宝)	口径 器高		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 44 図 12	第3層	土師器 皿	口径8.6 器高1.4	10Y R 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 45 図 12	第3層	土師器 皿	口径9.1 器高1.6	7.5Y R 6/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 46 図 12	第3層	土師器 皿	口径9.0 器高1.5	7.5Y R 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 47 図 12	第3層	土師器 皿	口径9.0 器高1.65	7.5Y R 7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 48 図 12	第3層	土師器 皿	口径9.0 器高1.6	7.5Y R 6/6	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 体部内面 底部内面

3表 遺物観察表(6/7)

	層位	種類	法量 (cm)	色調	調整手法	
	出土遺構	器種				
報告No. 49 図 12	第3層	土師器 皿	口径9.6 器高1.1	5YR7/4	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 50 図 12	第3層	土師器 皿	口径15.0 器高2.4	7.5YR 7/6	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 底部外面 ナデ	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 底部内面
報告No. 51 図 12	第3層	土師器 甕	口径13.8 器高3.5	2.5YR 5/6	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 52 図 12	第3層	土師器 甕	口径16.0 器高14.7	7.5YR 4/6	口縁部外面 ヨコナデ 体部外面 ハケメ後ナデ 底部外面	口縁部内面 ヨコナデ 体部内面 ハケメ後ナデ 底部内面
報告No. 53 図 12	第3層	瓦器 椀	口径15.2 器高4.9	N6/0	口縁部外面 横方向のヘラミガキ 体部外面 横方向のヘラミガキ 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 横方向のヘラミガキ 体部内面 横方向のヘラミガキ 底部内面 連結輪状暗文
報告No. 54 図 12	第3層	黒色土器 椀	口径7.3 器高1.7	7.5YR 6/4	口縁部外面 体部外面 底部外面 ヨコナデ ナデ	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 55 図 12	第3層	鉄製品 刀	口径23.5 器高3.5		口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面
報告No. 56 図 12	第3層	土師器 釜	口径39.2 器高7.5	7.5YR 5/6	口縁部外面 体部外面 底部外面	口縁部内面 体部内面 底部内面

3表 遺物観察表(7/7)



1 完掘状況



2 完掘状況



3 完掘状況



4 南東部第4層上面遺構検出状況



5 南壁コーナー部分断面



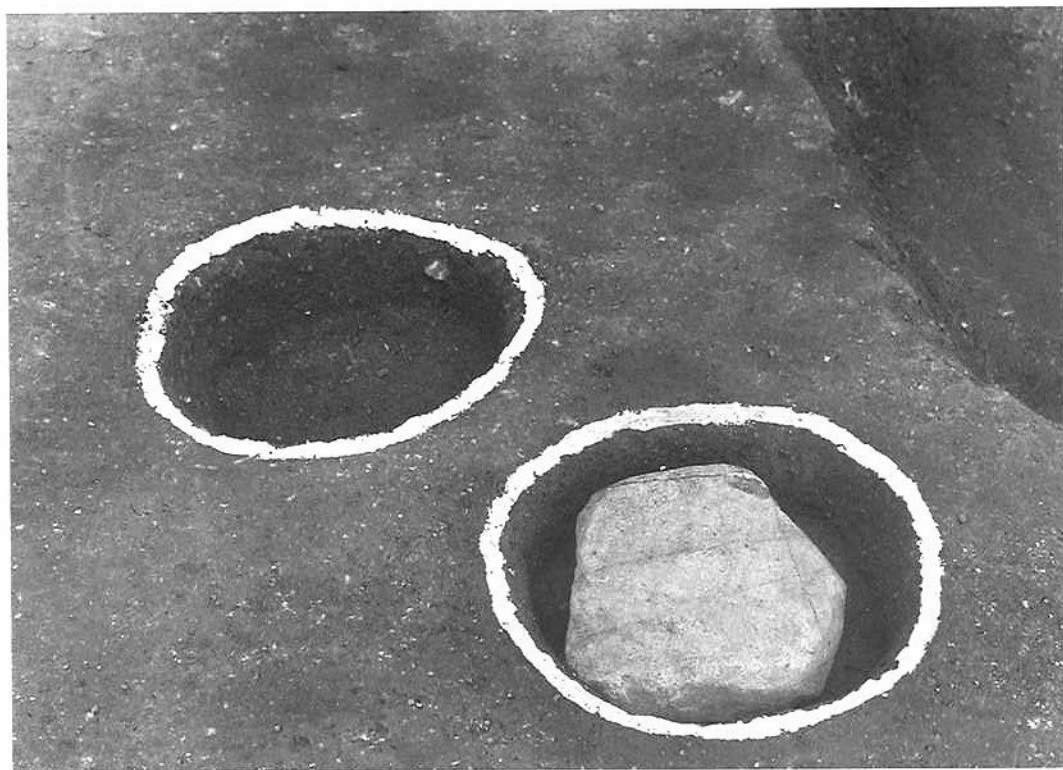
6 fラインアゼ北側断面



7 1b地区土壙墓遺物出土状況(南より)



8 火葬場検出状況(南北アゼ西側断面)



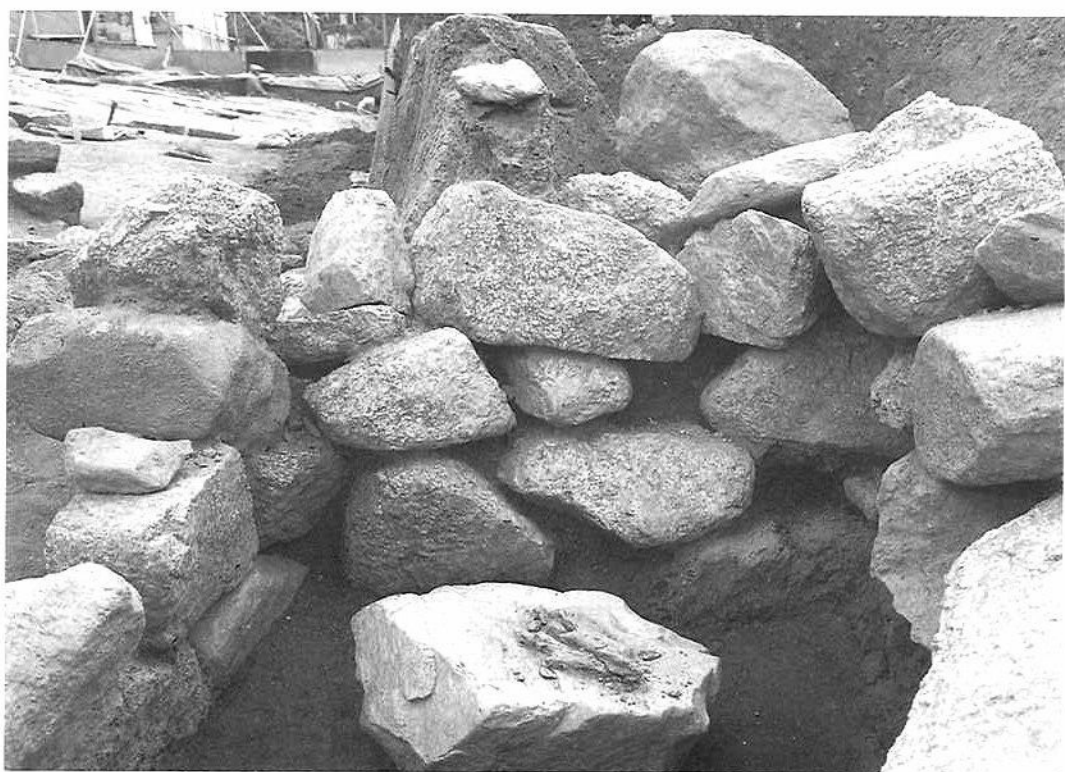
9 第4層上面 Pit 1・Pit 2 完掘状況



10 第2層下面 2 h 地区軒丸瓦出土状況



11 1c 地区石組墓



12 石組墓南壁検出状況



13 石組墓完掘状況(東より)



14 Pit 73弥生土器出土状況

報告書抄録

書名 岩滝山遺跡第4次発掘調査報告書
ふりがな いわたきやまいせきだい4じはくつちようさほうこくしょ
副書名
巻次
シリーズ名
編著者名 中西克宏
編集機関 財団法人東大阪市文化財協会
郵便番号 577-0843
所在地 東大阪市荒川3丁目28-21
電話番号 06-6736-0346
発行機関 財団法人東大阪市文化財協会
発行年月日 1999
遺跡名 岩滝山遺跡
遺跡名ふりがな いわたきやまいせき
遺跡所在地 東大阪市六万寺町1-788-1
所在地ふりがな ひがしおおさかしろくまんじちょう
市町村コード 27227
調査期間 1987.10.13-1987.12.07
調査面積 780m²
調査原因 住宅建設
主な時代 弥生時代後期 鎌倉時代
種別 集落 火葬場
主な遺物 弥生土器 瓦器 土師器 瓦
特記事項

岩滝山遺跡第4次発掘調査報告書

1999年

発行 財団法人東大阪市文化財協会

577-0843 東大阪市荒川3丁目28-21

電話 06-6736-0346

印刷 株式会社ミラテック